

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796300461		
法人名	(株)エクセレントケアシステム		
事業所名	エクセレント社の里		
所在地	大阪府堺市西区山田三丁1034番23		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの人生や大切にされてきた事・物・人・想いを理解しようとする学びの姿勢を大切に、其々の利用者様の現状に合った援助方法を探りながら関わることで、できるだけ明るく穏やかな気持ちで日々を過ごして頂けるように支援致します。また、これからも利用者様同士も職員もお互いに共に生活するお仲間として、得意分野を活かしながら協力し合い、四季の移り変わりや日々の出来事を一緒に楽しみながら過ごして頂けるよう援助致します。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、外出行事や地域交流は中止させて頂きましたが、室内体操等の時間を増やし、看護師が中心となって日常的な健康・薬剤管理を行っています。  
令和2年4月1日より、吸収合併の為「エクセレント社の里」としての活動となりましたが、これ迄培ってきた経験と信頼を大切に、利用者様・家族様・地域の方々から更に愛される施設を目指して邁進して参ります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「マナー・接遇」「美味しい食事の提供」「退屈させない日々の介護」を介護理念とし、季節感・行事食を採り入れ彩りにも配慮した食事、行事やレクリエーションの充実、風紀委員会活動等を通して実践に取り組んでいる。通常は地域交流・外出支援・外出行事を積極的に行い、利用者が地域と繋がりがながら暮らし続けられるよう支援している。今年度は外出や交流が困難な状況であるため、事業所内での行事や食事の充実を図り、季節感が感じられるように工夫している。体操・家事参加・菜園活動・制作等、様々な日々の活動も支援している。管理者が看護師であり、日々の健康・服薬管理、早期発見・対応、訪問診療との連携を行い、希望に応じて看取り介護にも対応している。年間計画にもとづいた研修・訓練、各種委員会活動、定期的な会議を継続し、職員の資質向上と連携に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『介護理念』は玄関と事務所、スタッフルームに掲示している。毎朝の朝礼の際に『会社理念』と共に唱和することで、日々、理念に基づいた介護サービスを提供させていただくという想いを確認し合っている。	「会社理念」「介護理念」「基本方針」を明文化し、地域密着型サービスとしての意義を明示している。「会社理念」を名札に記載し、「介護理念」を玄関・事務所・スタッフルームに掲示し、毎朝の朝礼で唱和し共有を図っている。接遇・食事・レクリエーションについて、委員会活動を通して理念の実践に向け具体的に取り組んでいる。また、人事考課の目標管理の中でも、職員が理念をもとに年間目標を設定して取り組み理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これ迄、町会の盆踊りやだんじり祭り等の見学、近隣の保育園児や中学生との定期的な交流、地域のふれあい喫茶への参加等を行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、中止せざるを得なかった。子ども110番の登録やリサイクル活動への協力は継続している。	通常は、地域行事や地域の防災訓練への参加や見学、ふれあい喫茶への参加、保育園児や中学生との交流、ボランティアの来訪など、積極的に地域交流の機会を設けている。今年度は、外出や直接の交流を休止しているが、保育園児との手紙やプレゼントの交換、中学ブラスバンドからの演奏DVDのプレゼント等、可能な形で交流の継続に努めている。また、介護相談への対応・子ども110番の登録・リサイクル活動への協力等、地域貢献を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居のご相談や施設見学希望には、できるだけ柔軟に対応している。その時点でお困り事があれば、介護保険サービスや認知症介護等についてご説明し、家族様が知りたい情報をできるだけ詳しくお話させて頂くよう心掛けている。必要に応じて、認知症疾患センターや認知症専門医の情報提供も行っている。		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム便り又は直接電話で開催日時をお知らせしている。今年度は6回とも書面開催になった為、構成員の方に活動報告書(行事等の内容や事故報告、利用者様の生活状況や防災訓練内容等)をご郵送し、「ご意見・ご質問シート」にてご意見等を回収させて頂いた。纏めた会議議事録は、家族様や後見人様にご郵送して報告させて頂いている。	通常は、利用者・家族・地域代表(民生委員)・地域包括支援センター職員・知見者(他グループホーム管理者)・事業所職員を構成メンバーとして、2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況、事業所の活動内容や取り組み、事故等を報告し、参加者からの意見や提案・情報をサービスや運営に反映できるように取り組んでいる。議事録は個人情報に配慮した形で構成メンバーに郵送し、最新の議事録を玄関に設置し公開している。今年度は開催が困難な状況であったため、構成メンバーに活動報告書を郵送し、「ご意見・ご質問シート」で意見等を回収し、議事録にまとめる書面開催とした。会議議事録は、構成メンバーと家族に郵送し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者様や民生委員の方に運営推進会議に参加して頂いているが、今年度は書面や電話で連絡を取らせて頂いた。生活援護課の担当者様とは、通常は電話で連絡を取り合い、施設で面談される際に情報交換させて頂いたり、必要に応じて直接区役所に赴くようにしている。西区及び堺市全体のGH連絡会にも出席し、お互いの悩みや対応困難な事例等について、情報交換させて頂いている。	運営推進会議(今年度は書面開催)を通して、地域包括支援センター・民生委員と連携している。堺市・西区グループホーム連絡会に参加し、連絡会の開催が困難な時期も、西区グループホーム連絡会内では連携を図っている。今年度は、市からコロナ関連の情報提供を受けることが多く、情報をもとに迅速な対応を行っている。利用者支援については、区役所に赴き、相談し助言を受けている。生活援護課の担当者とは、定期的に情報交換し、連携して利用者支援を行っている。	

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束等適正化委員会を開き、身体拘束等の現状を確認している。その際には、事例検討等も取り入れて勉強会を行っている。新入職員に対しては、入職後に指針やマニュアルの内容について指導している。利用者様と日々関わる中で、自分達が行っているケアが適切かどうかお互いに注意し合い、気になる事は小さな事でも意見交換し、見過ごさないよう努めている。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「虐待防止・身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1回以上開催している。多くの職員が出席できる全体会議内で開催することが多く、議事録を全職員が閲覧し共有を図っている。委員会では、スピーチロックや不適切ケアの防止に向けた検討や、チェックリストでの振り返り等を行なっている。また、委員会開催時に勉強会を実施し、身体拘束の理解と防止に向け意識向上に取り組んでいる。立地上、玄関は施錠しているが、利用者の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎に高齢者虐待防止委員会を開き、身体拘束とも関連付け、重要なポイントを再確認しながら注意喚起を促している。管理者・フロアマネージャー・介護主任が中止となり、利用者様の心身の状態に変化がみられないか、細かな観察と情報収集に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議内で地域包括支援センター職員の方から情報を頂いたり、定期的に内部勉強会で学ぶ機会が持てるようにしている。家族様からのご質問・ご相談は随時受け付け、資料をお渡ししたり、必要に応じて関係機関との調整を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に内容を全て読み合わせさせて頂き、ご理解・ご納得が得られるように援助している。解約や改定の際には書面でお知らせし、疑問点等があれば丁寧にお答えするよう努めている。		

エクセレント杜の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に事業所内・外の相談窓口を掲示し、ご意見箱を設置しているが、疑問点やご相談等は直接スタッフや管理者にお話して下さる利用者様・家族様が多い。ご相談の内容を十分に傾聴・把握し、丁寧な説明と納得のいく対応に努めている。苦情の内容は記録に残し、まず管理者とフロアマネージャー又は介護主任で適切対応について話し合い、解決策や今後の方針等については連絡ノートや全体会議で通知している。	今年度は通常の面会は困難な状況であるが、電話・感染予防対策を徹底した短時間面会・Web面会・「杜の里便り」等で、利用者の様子を伝えるよう取り組み、事業所来訪時や電話で、家族の意見・要望の把握に努めている。把握した意見・要望は、管理者・フロアマネージャー・介護主任で検討し、申し送りノートや全体会議で職員に伝えている。「ご利用者様へのアンケート」を年に1回実施し、利用者・家族の意見・要望を、サービスや運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議内で職員の意見や提案を聴取するようにしている。会議で検討・改善等して欲しい事柄については、事前にフロアマネージャー又は介護主任に伝えて貰い、その事柄については必ず話し合うようにしている。また、急ぐ事柄であれば、その都度、フロアミーティングを開くようにしている。職員が必要と感じている業務改善や物品購入等については、「改善提案書」を記載・提出して貰い、優先度の高い内容・物から対応している。	月に1回全体会議を開催して話し合い、職員の意見や提案を業務・体制・行事・利用者ケア等に反映している。会議で検討したい議題を、事前にフロアマネージャー又は介護主任に伝え、職員の意見を反映しやすいよう配慮している。緊急な検討事項については、その都度「フロアミーティング」で検討している。各種委員会(サービス向上、リスクマネジメント、虐待防止・身体拘束廃止、レクリエーション・アクティビティ、給食、健康管理・感染症対策、物品管理、風紀)を定期的に開催し、そこでの検討を運営やサービスに反映している。業務改善や物品購入等については、職員が「改善提案書」を提出する仕組みもある。定期的に、また随時にも、管理者が個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの能力や経験、これ迄の実績を評価した給与水準や処遇改善金の交付を行い、適材適所の役割分担に努めている。個々の職員の想い等をゆっくりと聞かせて貰う時間が作れない事が多いが、できるだけこちらから声を掛けるようにしている。新人職員については、「メンター記録」の内容を確認するようにしている。		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年度初めに其々の年間目標を立てて提出し、半年毎に自己評価と上司評価を行っている。自施設での勉強会の年間計画を立てて月1回実施している。また、会社の内部研修(新人研修や看護職研修、介護支援専門員受験対策講座等)にも参加して貰っているが、職員数にゆとりがない時にはスケジュール調整が難しい事がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、電話や書面での事が多かったが、堺市・西区GH連絡会、近隣GHの運営推進会議等で情報交換させて頂き、効果が期待できる取り組み等は試してみるようにしている。近隣GHの管理者とは運営やサービスに関すること等を気軽に相談できる関係を大切にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学のご希望や入居のご相談を受け付けた際には、ご本人や家族様、関係者の方のお話を傾聴し、其々の想いや置かれた立場・環境の理解を深めながら、ホームができる対応についてご説明し、今必要な情報を提供できるように努めている。入居前面談からご入居に至る迄の間、落ち着いて準備を進めて頂けるよう、急がせずに連絡を取り合える関係を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問合せの電話を頂いた時や施設見学に来て頂いた時より、相談し易い対応に心掛けています。家族様が不安に思っている事やお困り事の現状をできるだけ正確に把握し、疑問点等には丁寧にお答えするようにしています。また、入居後暫くの間は、家族様が来設された際や電話にて、入居後の利用者様の状況をできるだけ詳しくお伝えしています。		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や関係者の方には、利用者様の入居前の生活状況や認知症々状の情報が少しでも多い方が入居後の援助がスムーズである事をご説明し、可能な限り詳しく情報を収集させて頂いている。その上で、緊急性や優先順位を見極め、各種制度の情報提供や他事業所のサービス・医療機関のご紹介等もやっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員もまた、一度しかない今日という一日の暮らしを利用者様と共に楽しみたいという想いで関わらせて頂いている。これからも、利用者様の人生経験を聴かせて頂く、學ばせて頂くという姿勢を大切にしていきたい。また、利用者様の個々の能力を活かせる役割分担を思考し、お互いに協力し合って楽しく取り組める援助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は家族様と直接面会して頂く事が殆どできなかったが、緩和期間には、時間を決めてEVホール等で逢って頂いた。また、LINEによるWeb面談を受け付け、画面を通してではあるが利用者様のご様子をお伝えさせて頂いている。		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に帰ったり、家族様と食事に出掛けたり、親類縁者の冠婚葬祭への出席や大切な人のお墓参り等が行えるよう、家族様のご希望も伺い柔軟に対応してきたが、今年度は利用者様にも外出制限のご協力をお願いした結果となった。10年以上交流を続けさせて頂いている保育園や中学校の皆様とは、保育士さんや先生を通してお手紙やプレゼント交換させて頂いた。体制や職員の入れ替わりもあり、「もりのさと便り」が毎月発行できなかった事が悔やまれるので、来年度は定期発行を目指し、家族様や後見人様、地域の方々に施設内のご様子をお伝えしながら良い関係を継続していきたい。	馴染みの人や場所についての情報は、「フェイスシート」や「個別介護記録」に記載して共有している。通常は、家族・友人・知人の面会や手紙・電話のやり取り、家族との外食・冠婚葬祭への出席・お墓参り等、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう柔軟に支援している。今年度は面会や外出が困難な状況であるが、感染予防対策を徹底した短時間面会やWeb面会など、家族との面会が継続できるよう工夫している。また、10年以上交流を継続している保育園・中学校とはも直接の交流は休止しているが、手紙・プレゼント交換・演奏DVDのプレゼントなど、可能な形で馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様は他入居者の障害を理解し難い場合が多いので、職員が間に入り日常生活を共にする仲間のような存在となれる支援に努めている。日々の家事作業やティータイム、レクリエーション、お誕生日会、季節の行事等を通して、程良く楽しく関わる事ができるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもご相談があれば電話や来設して頂いて良い旨をお話しさせて頂いている。入院や他施設への移動による退去の場合には、病院や施設等からの問い合わせ等にその都度対応させて頂くようにしている。社の里で看取りをさせて頂いた時には、電話や葉書等で家族様の近況を尋ねさせて頂き、関わらせて頂いた事への感謝をお伝えしている。		



エクセレント杜の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者様との関わりを通して、顔馴染みの信頼関係を築き、思いやご希望を表出し易い環境作りに努めている。個々の利用者様のご意向の把握に努めているが、困難な内容や直ぐに対応できない時もある為、代替策をご提案したり一緒に予定を立てる様にしている。その内容は個別記録に残し、職員が共有できる様にしている。意思疎通が困難な利用者様の場合には、表情や反応を観察し、家族様からもお好きだった事等の情報を頂きながら探る様にしている。	利用者の思いや暮らし方の希望について、入居時に把握した情報は「フェイスシート」「アセスメントシート」等に記録し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。日々のコミュニケーションの中で把握した内容は、個別介護記録に記録し、全体会議やサービス担当者会議等で共有している。話しやすい雰囲気作りや選択肢を提示する問いかけ等、思いや意向を表出しやすいように配慮している。意思疎通が困難な場合は、以前の情報を共有したり、表情・しぐさ・行動の観察から推察したり、家族の意見・情報を参考する等、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に情報収集させて頂いた生活歴やサービス利用の経過等は「入居前相談記録」「フェイスシート」にまとめ、職員はその内容の把握に努めている。ご入居後は利用者様や家族様との信頼関係を築きながら、お話を伺うようにしている。新人職員は長く入居されている利用者様の情報や経過を把握し難い為、サービス担当者会議や毎月の全体会議でも情報の共有を図るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には、生活リズムを崩さないよう、昼夜逆転を起こさないよう、援助しているが、利用者様一人ひとりのペースに合わせて好きな活動ができるようにも配慮している。また、その日の心身の状態を観察しながら関わり、気になる変化を認めた時には個別介護記録に記載し、朝・夕の申し送りや職員連絡ノートを活用して情報の共有に努めている。			

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様のご意向を可能な限り聴取し、定時・状態急変時等のアセスメントの結果、サービス担当者会議や全体会議の際に職員から出た意見も取り込み、計画作成担当者が介護計画を作成している。作成した介護計画は、回覧後に職員が何時でも閲覧する事のできる個別ファイルに閉じている。内科・歯科医師や歯科衛生士、鍼灸師、福祉用具専門員等の関係者とも情報交換し、利用者様一人ひとりの課題が解決できる介護計画の作成に努めている。	「フェイスシート」「アセスメントシート」等をもとに初回の「介護計画」を作成している。計画内容は、回覧・全体会議での確認等により、職員への周知を図っている。サービスの実施・日々の生活の様子をiPadに入力し、個別介護記録に記録している。計画に基づいた実施は、個別介護記録の「項目」欄で確認できるように記録方法を工夫している。定期的には、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直し時には、再アセスメントを行い、サービス担当者会議を実施している。利用者・家族の意見や要望を確認し、かかりつけ医・歯科医・歯科衛生士・鍼灸師等関係者の意見も議事録に記載し、計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は職員が介護計画に基づいて観察した事や気付いた事を記載している。他職員が書いた記録を読み、利用者様の状況を把握したりケアのヒントを得て実践に繋がられる職員もいるが、他者の記録を確認する必要性や残すべき記録の理解が不十分な職員に対しては、その都度、注意・説明している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携を図り、人工透析や血糖値測定、酸素吸入、尿道カテーテル管理、壊疽部のガーゼ交換等を要する方の受け入れをこれ迄行ってきた。また、眼科や整形外科、認知症外来の定期受診介助、白内障手術とその前後の受診介助等も職員の都合がつく限り対応させて頂くようにしている。			

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近隣には店舗が少ないので、広報誌を確認したり、町内会や地域包括支援センターの方等から行事や催し物の情報を頂き、できるだけ参加できるように援助してきたが、今年度は人混みへの外出は中止し、ボランティアの方々の訪問も控えて頂く事になった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科の主治医や救急搬送病院に関するご希望を入居前に確認し、できるだけ入居前からの医療が継続できるよう支援させて頂いている。基本的に訪問診療で対応させて頂いているが、利用者様の心身の状態に応じて必要な検査や診療がスムーズに受けられるよう、専門病院・科への受診援助も行っている。利用者様の病状の悪化時や重度化、看取り介護期には、24時間体制の医療機関での対応をお願いしている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受療を支援している。協力医療機関による内科・歯科の訪問診療を受けられる体制があり、協力医療機関については通院も職員が受診支援している。内科は、「訪問診療記録」に職員からの報告・相談内容、医師の指示・処方等を記録している。歯科は「歯科訪問診療記録」、歯科衛生士は「歯科衛生士訪問記録」に記録している。通院結果は、個別介護記録と経過記録に記録している。特記事項は、連絡ノートで職員間で共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者様の体調や病状の変化に気付いた事には看護師に報告するよう指導している。これ位なら大丈夫かと自己判断せずには他職員とも相談し、介護職・看護職間で情報を共有しながら利用者様の健康管理を行っている。看護師は、利用者様個々の主治医・クリニックの看護師、担当薬剤師との連携に努め、服薬管理・適切な処置を行い、経過を把握した上で、介護職員の指導に当たっている。内服薬や軟膏処置等の変更時には、必ず職員連絡ノートと個別の健康管理表に記載し、全職員が把握し易いようにしている。			

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできるだけ早期に介護サマリーを提出し、病院からの問い合わせ等にもその都度対応している。できるだけ良い状態で早期に退院できるよう、担当相談員や病棟看護師との情報交換に努め、可能な限り面会やカンファレンスに赴くようにしているが、病状により退院が困難な場合には、家族様にご意向を確認しながら転居・退去を含めた話し合いをさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された際や終末期に施設で対応できる事等を明示した「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」を契約時にご説明させて頂き、同意を得ている。利用者様の重度化が予測された段階で家族様のご意向を伺い、医療機関の調整と連携強化に努めている。また、職員が不安なく看取り介護に取り組めるよう勉強会も行っている。	契約時に、「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」に沿って、事業所の方針を説明し同意を得ている。契約時点での終末期対応についての意向も、文書で確認している。利用者の重度化が想定された段階で、医師からの説明を受け、家族の意向を再確認している。看取り介護の希望があれば、「看取りの同意書」で同意を確認し、「看取り介護計画」を作成し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。年間研修計画に沿って、「ターミナルケア」研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生した事故については、数日中にカンファレンスを開いて対策を検討し、翌月初旬のリスクマネジメント委員会でも話し合っている。職員がいつでも閲覧できる場所にマニュアルを備え、転倒等の事故発生時や急変時の対応については、勉強会で定期的にデモンストレーションを行っている。事故を予防し、急変時にも早期に対応できるよう、補助金を利用して導入した見守りセンサーシステムを活用している。		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は職員数の少ない夜間帯の火災発生を想定した訓練を継続して行っている。非常持出袋を各ユニットに常備し、アルファ米等の備蓄にも努めているが、ホ施設周辺に民家や高層ビル等が少なく、災害時に施設内でどれだけの期間生活が維持ができるのかが重要である為、「非常災害対策計画書」「BCP」の内容が現状に見合っているか今後も定期的に確認していく必要がある。	毎年2回、実際の夜間の時間帯に、利用者も参加して、夜間想定での避難訓練を実施している。例年は、年に1回は消防署の立ち合いがあり、指導・助言を受けている。火災訓練以外にも、風水害・地震・防犯の訓練を各1回ずつ実施している。各種訓練は多くの職員が参加できるよう工夫して行うと共に、「訓練の実施記録」を全職員が閲覧し周知を図っている。また、新入職者には、個別に「防火防災新人職員教育」を行い、基本的なことを説明している。例年は、地域の防災訓練に、利用者と共に見学参加している。(今年度は開催中止)各階に非常持ち出し袋を用意し、水・アルファ米等の食料は管理表一覧で期限等を管理し、賞味期限前には食材に使うよう工夫している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの生活歴や認知症の状態に合った言葉掛けや援助方法に心掛け、日常のケアの中で職員の気になる対応や不適切な言葉掛けがあれば、その都度注意し合ったりスタッフ会議で話し合うようにしているが、意識の低い職員には個別で指導している。また、3ヶ月毎にサービス向上委員会を開き、接遇・マナーについても話し合っている。	「マナー・接遇」を「介護理念」の中に位置づけている。年間研修計画に沿って、「倫理・法令遵守」「個人情報・プライバシー保護」「認知症ケア」についての研修を実施し、その中で尊厳の保持やプライバシー保護について学ぶ機会を設けている。「サービス向上委員会」を3ヶ月に1回開催し、接遇マナーの向上に取り組んでいる。「風紀委員会」を2ヶ月に1回開催し、言葉遣いなど接遇に関する「風紀自己チェックシート」(3ヶ月に1回実施)の集計と改善に向けた取り組みを行っている。気になる対応や言葉かけ等があれば、管理者が都度注意を促したり、全体会議等で気づきを共有し改善に取り組んでいる。個人情報に関わる書類は施錠できる書庫に保管し、入職時に守秘義務について誓約書を交わしている。氏名・写真・動画の公表については、契約時に個人情報使用同意書で意向を確認している。	

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方的に決めてしまう事のないよう、できるだけ選択肢をご用意したり、信頼関係を築きながら思いや希望を表出しやすい場面設定の援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で可能な限り利用者様一人ひとりの生活リズムや主体性を尊重し、その人らしい日々の過ごし方ができるよう、柔軟な対応に努めている。言葉の理解や表現が困難な方に対しては、表情や仕草、行動を観察しながら、できるだけ穏やかな気持ちで過ごして頂ける居場所作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様には、お好きな服装ができるよう援助しているが、気候や室温に合った声掛けをしながら清潔な物を身に着けるられるように努めている。女性利用者様には、基本的にお好きなようにお化粧して頂いており、普段はされない方にも、外出・外食や季節の行事の際等にはお勧めしている。ご希望に応じて衣類や化粧品等の買い物援助も行い、男性利用者様には、髭剃りの声掛けや介助を行っている。訪問理美容のご利用の際には、利用者様ご自身からや職員がご希望を伝えし、満足できるおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	<p>手作り食と食材業者のメニュー食を組み合わせて提供している。月に一度は特別食(行事食)に取り組み、食事からも日本の四季折々の風趣や楽しみを味わって頂けるよう努めている。節分行事の際は利用者様と一緒に巻き寿司を作ったり、運動会の日にはお弁当を提供し、事故の無いように見守り・介助しながら楽しく食事ができるよう援助している。可能な利用者様には、食材の下ごしらえや食器洗い・拭き等の作業に参加して頂けるように工夫している。菜園で育てた野菜は利用者様と一緒に収穫し、食材として使用している。また、誕生日会の日にはできるだけ手作りのケーキをご用意するようにしている。誤嚥予防の為、昼・夕の食前には嚥下体操を実施している。</p>	<p>「美味しい食事の提供」を「介護理念」の中に位置づけている。手作りの食事とクックチル食を組み合わせて食事を提供し、月に1度は特別食の日を設けている。献立に季節感・行事食・利用者の希望を採り入れ、彩りや盛り付けにも配慮がある。行事食は特に趣向が凝らされ、誕生日は手作りのケーキでお祝いしている。3食の食事とおやつを、毎日写真に残し記録している。利用者と一緒に菜園で育て収穫した野菜も食材として活用し、利用者も食材の下準備や後片付け等に参加できるよう支援している。利用者個々の食事形態に対応し、食事前には嚥下体操を行い、安全に食事ができるよう支援している。通常は外食を楽しむ機会も設けているが、今年度は外食を休止しているため、事業所内で「食」が楽しめるよう取り組んでいる。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>利用者様の年齢や体格、運動量、疾患、咀嚼・嚥下状態等を考慮し、主治医にもご相談しながら利用者様一人ひとりの状態に合った食事量・形態での提供に努めている。摂取量は毎食個人記録に残し、基本的には月1回体重を測定して変動に応じた食事提供量の見直しを行っている。また、栄養状態の悪化を防ぐ為等、必要に応じた捕食援助も行っている。脱水予防の為、手作りの経口補水液の提供も行っている。</p>		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1回訪問歯科衛生士に口腔ケアの指導して頂き、毎食後に利用者様の能力に合わせた口腔ケアの声掛けや見守り、介助を行っている。「口腔ケア・マネジメント計画書」を作成し、歯科医師又は歯科衛生士に記載して頂いた助言は職員が回覧して確認している。歯科医師・歯科衛生士が訪問された際に職員は気になることをご相談し、アドバイスを頂きながら口腔内ができるだけ良い状態で保てるように努めている。口腔ケアの受け入れが悪い利用者様には、無理強いをせずに根気よく関わる様になっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に入力した排泄記録でパターン等を把握し、利用者様一人ひとりに合った声掛けや誘導を行っている。尿・便意の訴え時やサインに気付いた時は、できるだけ早くトイレに誘導するようにしている。尿・便意はあるが後始末等が十分にできない方や失敗を隠そうとされる方等には、プライバシーに配慮しながらできない部分をお手伝いしたり、タイミングを計りながら着衣交換・清掃等の援助に入るようにしている。また、可能な限り排便コントロールを図り、不快な時間が長く続いたり失敗による不潔行為等が減らせるように努めている。	iPadに入力した個別の「排泄記録」をもとに、利用者個々の排泄パターンや排泄状況を把握している。排泄の自立度についての個人差が大きく、利用者個々に応じた支援を行い、日中はできる限りトイレで排泄できるように支援している。介助方法や介護用品については、フロア会議やサービス担当者会議で検討し、家族の同意も得ながら、現状に即した介助方法や適切な排泄用品の使用につなげている。介助は可能な限り同性で行い、声かけ・誘導時は声の大きさに配慮する等、羞恥心やプライバシーへの配慮に努めている。	



エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操やエクセレント体操を実施し、廊下歩行や近隣の散歩援助も行っている。食事やおやつで果物やヨーグルト等を提供したりもしているが、便秘傾向が強い方も居られるので、医師の指示の下で必要な頓用下剤服用の援助も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は行事等を考慮して介護主任が決めているが、ご希望やその日の体調に応じて臨機応変に対応している。入浴前にしっかり体調とバイタルサインを確認し、湯温や浴槽に浸かる時間等もできるだけご本人の好みに合わせるようにしている。また、季節のゆず風呂や温泉の入浴剤で気分が変わる援助も行っている。風邪等で体調が悪い方や看取り介護期で入浴が困難な方には、居室やベッド上での清拭・洗髪・更衣の援助を行っている。	週2回の入浴を基本とし、介護主任が入浴予定を立て、利用者個々の体調や気分・状況に応じて、時間帯などを変更し臨機応変に対応している。入浴状況はiPadに入力し、回数も把握している。個浴の一般浴槽で、好みの湯温に調整し、自身のペースで入浴が楽しめるように支援している。同性介助の希望に対応し、シャワー浴・2人介助等、個別の配慮で対応している。ゆず湯や入浴剤で、入浴を楽しむ機会も設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を来さない様に注意しながら、基本的には利用者様個々の生活習慣に合わせて午睡や就寝をして頂いている。意思表示が困難な方の場合は、心身の状態を観察しながら必要な休息・睡眠時間が取れるように援助している。中途覚醒された際には、なるべく頓用の睡眠剤は服用せずに、談話したり飲み物等を提供して再入眠を促すようにしている。		

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬援助前には、ご本人のお顔を見ながら薬袋の名前・服用時間を声を出して読んで確認し、薬を飲み込まれる迄の見守りを確実にを行うよう教育しているが、落薬事故が発生する時がある。介護職員の中には、食後薬を食後直ぐにと思っている場合もあるので、看護職が焦らなくても良い事を指導している。職員が薬の作用・副作用や注意点をいつでも確認できる様に薬剤情報提供文書をファイルにまとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生きがいや残存能力の把握に努め、役割を持って家事作業等を行って頂くようにしている。習字や色塗り、歌唱等の得意分野で力が発揮できるような場面作りにも心掛けている。外出が可能な状況になれば、化粧品や衣服、ご自分の好きな雑誌等を買いに掛かけたり、スイーツ等を楽しめる外食援助もまた行っていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調とご希望を確認して近隣の散歩にお連れしている。玄関のベンチや裏庭で外気・日光浴をされる際に楽しんで頂けるよう、花壇や菜園に季節のお花や野菜を植えるようにしている。今年度は、お花見やいちご狩り、遠足等の行楽、盆踊り等の地域のイベントへの参加等の援助ができなかったが、夏には施設駐車場で花火をしたり、お正月には職員手作りの門松と鳥居で初詣をして頂く等の工夫を行った。今年度は個別の買い物は職員が代行させて頂いたが、今後の状況をみながらできる対応については考えていきたい。	通常は、散歩・買い物・外食・喫茶などの日常的な外出、桜・菖蒲・いちご狩りなど季節を楽しむ外出、盆踊り・だんじり祭りなど地域行事への参加、一泊旅行、日帰り旅行など、家族の協力を得ながら外出支援に取り組んでいる。今年度は外出が困難な状況のため、近隣への散歩に出かけたり、玄関前のベンチや裏庭で外気浴をしたり、菜園で花や野菜の植栽・収穫を楽しむ等、戸外で気分転換が図れるよう取り組んでいる。また、駐車場で花火を楽しんだり、ほぼ実物大の門松と鳥居を職員が手作りして初詣したり、職員が仮装したハロウィンパーティを行う等、事業所内で季節や行事が体験できるように工夫を凝らしている。	

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方は自己で所持して頂く事もあるが、基本的には施設が立替えさせて頂いている。家族様の希望があれば事務所でお預かりし、外食や買い物等の際にご自分で支払われる方については、個々のお小遣い帳を作成して担当職員と一緒に残金を確認し、出納状況を家族様に報告させて頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて職員室の電話を利用して頂くことが可能である。利用者様が電話を掛けて良い相手先は入居時に家族様より聴取させて頂いている。また、手紙や年賀状等を書いたり投函するお手伝いをして、大切な人との繋がりが途切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、共有の生活空間が衛生的で利用者様に気持ち良く使用して頂けるよう、リビングには空気清浄機を設置し、換気と清掃・消毒を分担・協力し合っている。リビングの壁には、習字の作品や利用者様と職員が共同で制作したカレンダーを貼ったり、好みの音楽を流したり、楽しみにされているTV番組を視聴できるように配慮している。座布団カバーや暖簾等は職員の手作りの物も使用し、家庭的な雰囲気の中で寛いで頂けるよう工夫している。また、室温・湿度、採光にも注意を払い、調理の音や匂い、人の温もりが感じられる空間で、生活感のある暮らしが送れる援助に心掛けている。家具等の配置については、利用者様の動線に配慮し、安全で落ち着いた過ごして頂けるように努めている。	採光・室温・湿度に留意し、掃除・消毒・換気を管理表で分担し、空気清浄機を設置する等、清潔に快適に過ごせるように取り組んでいる。共用空間には、季節の花や、毎月利用者共同制作した作品やカレンダー等を飾り、季節感を大切にしている。職員手作りの座布団カバーや暖簾を使い、また、調理の音や匂いから、生活感や家庭的な雰囲気が感じられる。利用者も調理・洗濯等の家事作業に参加して生活感が感じられるように支援している。利用者の動線を考慮し、テーブル・ソファ等の配置を工夫し、安全にくつろいで過ごせるように配慮している。	

エクセレント社の里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う方と昔話や将棋等を楽しんだり、独り居室で静かに休んだり、好きな時間にお片付けや塗り絵等ができるように援助している。他入居者の状況理解が困難な方もおられるので、お相手の方に負担が掛かっていないか等さり気なく見守り、できるだけお互いに不快な思いをされないように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具等は、安全面を考慮した上で配置や保管場所、ご使用時以外は職員がお預りさせて頂いた方が良いかどうか等について検討し、できるだけ使用して頂けるよう援助している。これ迄の生活の中で大切にされてきた衣類や写真等の思い出・趣味の品物、お人形や御位牌等も持参して頂き、その人らしい生活空間作りを心掛けている。居室内に物が多過ぎると混乱される場合もあるので、家族様と相談しながら必要な物を徐々に揃えていく等の配慮もしている。	各居室に、洗面台・クローゼット・ベット・エアコン等が設置されている。筆筒・椅子・机など使い慣れた家具や、写真・アルバム・自身の作品・人形など好みの物の持ち込みを勧め、居心地のいい、その人らしい居室づくりを行っている。認知症の進行やADLの低下に伴い、居室担当職員が家族と話し合いながら、安全面や心理面を考慮した環境整備や備品管理を支援している。必要に応じて居室前に目印をつけ、場所間違いの防止に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1・2階の移動には、歩行能力に応じてエレベーターと階段を使い分けて頂いている。車椅子の自操ができる方にはできるだけご自分でして頂くようにし、居室を覚え難い方には目印となる物を付ける等している。床の状態等、安全面に配慮した環境整備に心掛け、薬液や刃物類等の安全・保管管理はチェック表を用いて徹底に努めている。また、来設者の対応については、インターホンのモニターや出入口に設置している監視カメラの画像を確認し、不審者の侵入を予防している。		